横浜市立 田奈中学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

重点取組分野	令和 元 年度 具体的取組	令和 元 年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知	①教科カリキュラムを作成・配布し、生徒・保護者への周知に努める。②3年生で数学の習熟度別授業、英語のTT指導（授業）を行う。③定期テスト2～3日前の放課後に、教科ごとに教室に分かれ50分間の学習相談を行う。④夏季休業中に、5教科の学習相談をおもに授業形式で行い、その際学生ボランティアの活用を行うことで、きめ細かな指導を行う。	①生徒・保護者への周知、徹底を今後も継続していくことが必要と考えられる。②習熟度別授業やTT指導などによって、個に応じた指導ができた。③参加人数は多くはなかったが、参加した生徒には有意義な時間となった。④多くの生徒が参加し、充実した取り組みができた。	B
豊かな心	①「特別の教科 道徳」では、自己を見つめて物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができる授業作りを目指す。②生徒の発達段階に応じた平和学習や人権学習を行う。③学校の仲間、家族、地域の一員としての自覚を高め、自分に何ができるかを考え実践することや、社会で通用する規範意識の育成を行う。	①「特別の教科　道徳」では、教科書の読み物教材を活用して計画的に多面的・多角的な授業を展開できた。②学年道徳や全校道徳を通して、平和学習、人権学習を行うことができた。③人権意識の高揚を図る学習を通して、誰もが安心して安全に過ごせる学校づくりを目指すことができた。	B
健やかな体	①学校保健委員会を通して、自らの心身の健康に関心を持ち、知識の習得により自己管理のできる生徒の育成を目指す。 ②体育的行事に発表の場を設けることにより、日々の体力向上への取組に意欲を高める。	①学校保健委員会（テーマ前期「間食」後期「スマホの使い方」）を通し、身近な健康課題から自らの生活を振り返らせることができた。栄養教諭と連携した。	A
キャリア教育	①1年職業講話、2年職場体験学習を通して、職業観や地域との交流、マナー意識を培う。②3年では生徒が必要な情報を得ることができるように、進路情報の積極的な発信を行う。③生徒本人が、自身の進路について考え、豊かな選択肢が持てるように支援し、自ら進路を決定できる力を養う。	①職業講話・職場体験では、地域とのかかわりをもちし、職業観やマナー意識を養った。②3年では、進路情報を積極的に発信し、1・2年でも進路に向けて意識を高める機会をもった。③生徒本人が自身の進路について考え、選択・決定できる力を養った。きめ細かな指導を心掛けた。	B
特別支援教育	①個に応じた適切な支援ができるよう、校内での定期的な情報交換を行い、実態把握と具体的な支援方法を検討し、学校全体で取り組む体制を構築する。 ②支援が必要な生徒に対しては、家庭や関係諸機関とも連携をとりながら、個別の指導計画等を作成や特別支援教室の活用など具体的な手立てを講じ、きめ細かな指導を行う。	①特別支援教室を開室し、支援が必要な生徒の居場所として、学校全体で取り組む体制を確立することができた。生徒の実態に応じて、より充実した場となるよう、運用方法の改善し、活用していきたい。 ②関係機関と連携を取り、個に応じた支援を検討し、具体的な手立てを講じることができた。	B
生徒指導	①毎月月末に生活点検、4月と、8月に長期休業明けの面談を実施し、生徒の悩みや課題を把握し共有して、職員全体での取組としての相談活動に役立てる。 ②地域や小学校との会合（街の座談会・小中合同研修会など）やカウンセラーの活用を通して、豊かな生徒支援と、適切な課題解決を目指す。	①毎月の生活点検から、早期に生徒の悩みや相談したいことを把握できた。特に長期休業後の全員との面談は様子の変化に気づくために有効であり、各担任が丁寧に行うことができた。②地域との会合を通じて、地域での様子を知ることができた。小・中合同生活指導研修で指導の共有を果たせた。	B
いじめへの対応	①教育相談、生活点検、いじめアンケートの実施から生徒一人ひとりの状況についての記録を作成し、いじめ防止対策委員会を中心とした支援を進める。 ②教職員の意識や生徒へのきめ細かく、丁寧な対応を共通認識することができるように職員研修を行う。	①年2回の教育相談、月一回の生活点検、いじめアンケートの実施による情報で、防止対策委員会にていじめへの早期対応と継続的な見守りをすることができた。 ②生徒指導の研修を通して生徒へきめ細かく、丁寧な対応を共通認識することができた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンター研修で、経験の浅い教員の指導力や学校経営意識の向上を図る。全職員対象の研修を通し、指導改善や危機管理意識向上に努める。②研究授業週間等を設け、新学習指導要領に対応する3年間を見通した授業力向上を図る。③職員室アシスタントの配置を受け、業務の効率化・学年間の情報共有の在り方を精査して組織運営改善につなげる。	①メンター研修を定期的に実施し、年次研修者の指導案をメンバーで討議するなど、成果を上げている。 ②研究授業週間については、授業の感想を掲示するなど担当者が工夫して好評であるが、さらに充実させたい。 ③業務アシスタントの存在は教員の負担軽減に大きくつながっている。	B
ブロック内評価後の気付き	・小中交流については、今年度長津田第二小を中心に発信してもらった。これまでの流れや振り返りを基に、より効果的な連携をこれからも図っていきたい。 ・夏に実施した小中合同の生徒理解研修は、内容もわかりやすく好評であった。3小1中の4校は連携も取りやすいので、児童生徒指導の情報交換を深めたり、中一ギャップとならないよう今後も連携を進めたい。担当者の会合もこまめに行っていきたい。		
学校関係者評価	・田奈中学校区の生徒は落ち着いて生活し、中学の部活動の活躍などもすばらしく、いつも応援している。 ・地域行事に中学生の力をもっと借りたい思いはある。地域が高齢化して、行事の運営が難しくなっている。 ・地域の伝統行事の継承もしていきたいが、今の中学生はあまり興味がないようだし塾に習い事に部活動に忙しそうだ。 ・保護者は協力的だが、しつけ面で学校に依存するのは気になる。 ・登下校等、歩道のない部分の歩行には気をつけてほしい。		
中期取組目標振り返り	生徒にとって居心地の良い学校づくりを進めている。暑さ対策や様々な環境整備をし、毎日の学校生活に関わる改善を今後も行う。 新教育課程への移行期間でもあり、生徒の言語能力・表現力を育成するために授業づくりや評価活動についてもさらに検討していく必要がある。 道徳教育については、教材を精選し、指導者の工夫を図るなど違う形での取組を進めている。 行事や部活動を通じて前向きな意欲を育成できている一方、不適応をおこしているいる生徒に対する支援はさらに検討が必要である。		

重点取組分野	令和 2 年度 具体的取組	令和 2 年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
キャリア教育			
特別支援教育			
生徒指導			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営（働き方改革）			
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 3 年度 具体的取組	令和 3 年度 自己評価結果	総括
生きて はたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
キャリア教育			
特別支援教育			
生徒指導			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営（働き方改革）			
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			